



36th TOUR DE HOKKAIDO 2022

9.9 FRI » 9.11 SUN

総走行距離
約530km

第1ステージ(ロードレース)
[171km] 9/9(金)

札幌市～小樽市～赤井川村～
仁木町～余市町～古平町～
神恵内村～泊村～共和町

第2ステージ(ロードレース)
[186km] 9/10(土)

倶知安町～共和町～蘭越町～
ニセコ町～豊浦町～洞爺湖町～
真狩村～倶知安町

第3ステージ(ロードレース)
[173km] 9/11(日)

倶知安町～共和町～蘭越町～
ニセコ町～真狩村～喜茂別町～
伊達市～千歳市～苫小牧市



- ◆主催/公益財団法人ツール・ド・北海道協会 ◆競技主管/公益財団法人日本自転車競技連盟
- ◆後援/国土交通省、スポーツ庁、経済産業省、北海道、北海道市長会、北海道町村会、公益財団法人 JKA、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、一般財団法人日本自転車普及協会、一般社団法人自転車協会、NHK札幌放送局、北海道テレビ放送株式会社、北海道経済連合会、一般社団法人北海道商工会議所連合会、北海道商工会連合会、公益社団法人北海道観光振興機構、一般社団法人北海道建設業協会、一般社団法人北海道建築事業協会、一般社団法人日本道路建設業協会北海道支部、北海道アスファルト合材協会、一般社団法人北海道バス協会、公益社団法人北海道トラック協会
- ◆特別協力/北海道新聞社
- ◆協力/北海道開発局、北海道経済産業局、札幌市、小樽市、苫小牧市、千歳市、伊達市、蘭越町、ニセコ町、真狩村、喜茂別町、倶知安町、共和町、泊村、神恵内村、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、豊浦町、洞爺湖町、公益財団法人北海道スポーツ協会、一般財団法人北海道交通安全協会、北海道自転車競技連盟、北海道自転車軽自動車商業協同組合、北海道自転車協会、北海道サイクリング協会、特定非営利活動法人北海道スキースキー協会
- ◆お問い合わせ/公益財団法人ツール・ド・北海道協会

TEL.011-222-5922 <https://www.tour-de-hokkaido.or.jp>



第36回 ツール・ド・北海道 2022

事業報告 RACE REPORT

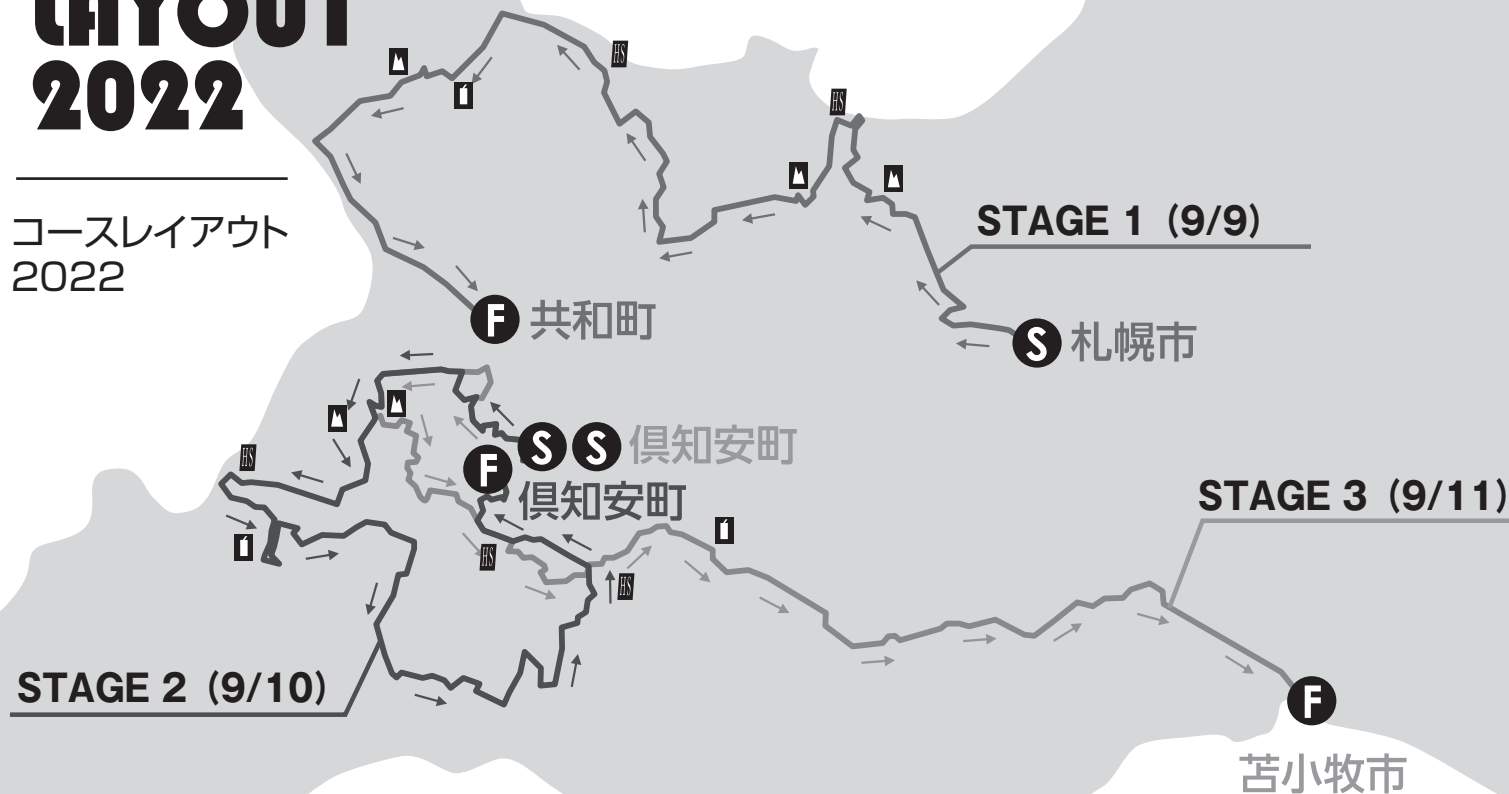


競輪の補助事業

この大会は、競輪の補助を受けて実施しました。
<https://www.jka-cycle.jp>

COURSE LAYOUT 2022

コースレイアウト
2022



[競技日程]

■9月9日(金)第1ステージ 171km (ロードレース) 札幌市～小樽市～赤井川村～仁木町～余市町～古平町～神恵内村～泊村～共和町

スタート：札幌市 豊滝除雪ステーション<9:30>
フィニッシュ：共和町 生涯学習センター

■9月10日(土)第2ステージ 186km (ロードレース) 倶知安町～共和町～蘭越町～ニセコ町～豊浦町～洞爺湖町～真狩村～倶知安町

スタート：倶知安町 ニセコグラン・ヒラフスキー場<9:30>
フィニッシュ：倶知安町 ニセコグラン・ヒラフスキー場

■9月11日(日)第3ステージ 173km (ロードレース) 倶知安町～共和町～蘭越町～ニセコ町～真狩村～喜茂別町～伊達市～千歳市～苫小牧市

スタート：倶知安町 ニセコグラン・ヒラフスキー場<9:30>
フィニッシュ：苫小牧市 緑ヶ丘公園

■9月11日(日)最終表彰式 苫小牧市緑ヶ丘公園ハイランドスポーツセンター (ステージ表彰含む)

- S スタート
- F フィニッシュ
- H ホットスポット
- M 山岳ポイント
- I 補給所

北海道の雄大な自然の中を銀輪が町から町へと走り抜ける「ツール・ド・北海道」は、国内最大級の自転車ステージレースである。3年振りの開催となった今大会は、道央地域を中心とした5市10町4村にまたがる530kmを走破するレースとなった。

9月9日(金)の第1ステージは札幌市豊滝除雪ステーションをスタートし、3か所のKOMを超えて、共和町生涯学習センターでフィニッシュした。

9月10日(土)の第2ステージは、倶知安町ニセコグラン・ヒラフスキー場前をスタートし、序盤に設定されたKOMを超えると、標高差約700mを一気に駆け降りる。その後、ニセコ山系を巡り、再び倶知安町に戻る今大会最長距離のコース。

9月11日(日)の第3ステージは、前日と同じくニセコグラン・ヒラフスキー場前からスタートするが、40.3km地点で前日のコースを離れる。大会最後のKOMを過ぎた後は羊蹄山の裾野を周り、支笏湖畔を通過して苫小牧緑ヶ丘公園でフィニッシュした。

総走行距離
530km

2022
AREA



ツール・ド・北海道 2022 事業報告書

●大会概要

公益財団法人 ツール・ド・北海道協会

1.事業開始	2022年5月27日(金) 札幌市中央区北5条西6丁目 第二道通ビル2階 2H会議室において「ツール・ド・北海道2022」実行委員会を開催(一部オンライン参加)					
2.事前会議	2022年9月8日(木) 役員打合せ会議、参加チーム受付、ライセンスコントロール、監督会議、レースセキュリティ・ブリーフィング、審判合同会議、部門別会議、プレス・カンファレンス					
3.大会期間	2022年9月9日(金)～9月11日(日) 3日間					
4.ステージレース	日程	日 程	競 技	経路・会場	距離(km)	道路別距離(km)
		9月9日(金)	第1ステージ(ロードレース)	札幌市～共和町	171	国道/154.5 (29.1%)
		9月10日(土)	第2ステージ(ロードレース)	倶知安町～倶知安町	186	道 道/316.8 (59.7%)
		9月11日(日)	第3ステージ(ロードレース)	倶知安町～苫小牧市	173	その他/59.3 (11.2%)
	参加チーム	海外チーム(1) ①EF エデュケーション-NIPPOディベロップメントチーム(アメリカ) 国内チーム(13) ①愛三工業レーシングチーム ②キナンレーシングチーム ③マトリックスパワータグ ④那須ブラーゼン ⑤シマレーシング ⑥チームブリヂストンサイクリング ⑦宇都宮ブリッツェン ⑧北海道地域選抜 ⑨日本大学 ⑩京都産業大学 ⑪日本体育大学 ⑫鹿屋体育大学 ⑬東京大学				
	参加人数	参加選手 68人、チームスタッフ 64人				
5.関係市町村	総数	19市町村(5市10町4村)				
	地元賞等	共和町 らいでんメロン、メロンのお酒詰め合わせ 倶知安町 豪雪うどん 乾麺8食入り 苫小牧市 ご当地名産詰め合わせ				
	アトラクション	新型コロナウイルス感染症対策のため実施せず				
6.関係者	役員	大会役員 53人、実行委員・幹事 82人、競技役員 159人 計 294人				
	交通整理等	警察官 125人、コース・会場警備員 429人、コース整理員 237人、会場設営・メディア等ボランティア 50人				
7.広報・安全	広報対策	ポスター 4,320枚(大720枚)、交通規制チラシ40,000枚、新聞(北海道新聞、読売)、日本道路交通情報センター、国道道路情報板、高速道路情報板、各種イベント情報サイト、SNSを活用した情報発信等各ステージダイジェスト動画をホームページで公開				
	安全対策	交通規制・競技看板 341枚、セーフティコン 1,091本、バリケード 887本				
8.観衆人員(概数)	3,300人(第1ステージ900人、第2ステージ1,150人、第3ステージ1,250人)					
9.印刷物	ガイドブック 5,400部、テクニカルガイド400部、事業報告書450部					
10.車両・宿泊	車両使用台数93台(うち2輪車19台)、パトカー3台、宿泊施設数4か所					
11.まとめ	<p>今年は、新型コロナウイルス感染症のまん延によりキャンセルした2020年、2021年大会の仕切り直しと位置づけ、ニセコエリアを中心とする道央地域において3ステージともに快晴で良好なコンディションのなか開催した。第1ステージでは道央地域の3大峠に山岳ポイント(KOM)を設けたことでコンチネンタルチームと大学チームの選手間の実力差が歴然となり、第1ステージ出走選手68人のうち20人が初日で姿を消し、最終ステージでフィニッシュした選手が37人と、多くの選手が脱落した。</p> <p>第1ステージは3日間の中で最も過酷な山岳コースで、大学チームの選手が次々と脱落し、脱落した20人のうち大学チーム17人が初日で姿を消した。フィニッシュ前で飛び出した3人が熾烈なトップ争いを演じた結果、チームブリヂストンサイクリングの今村駿介が第1ステージを制した。</p> <p>第2ステージ、第3ステージはいずれもニセコ・グランヒラフスキー場前のひらふ坂からのスタートで、前半の山岳ポイント(KOM)以降は比較的平坦なコースで脱落者は2日間あわせて11名と少なく、第3ステージのフィニッシュまでもつれる白熱したレース展開となった。</p> <p>個人総合時間賞は、第2ステージを制し、そのタイム差をコントロールした門田祐輔、個人総合山岳賞は各ステージで上位をキープした留目夕陽、個人総合ポイント賞は第1・第3ステージを制した今村駿介が受賞し、団体総合時間賞はキナンレーシングチームが、U26団体総合時間賞はEF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム(アメリカ)がそれぞれ受賞した。</p> <p>北海道選抜チームは、第2ステージまで5人全員が残り、U26団体総合入賞が期待されたが、第3ステージで3人が脱落し、残念ながら入賞を逸した。大学生チームは5チームが出場したが、過酷な山岳コースに苦戦し、第1ステージで京都産業大学の5選手をはじめとする17人が脱落し、第3ステージで出走できたのは4チーム5人だけであった。</p> <p>大会を通じ、チームカーに掴まる、スリップストリームを利用するなどして合計選手6人監督2人に罰金50～100スイスフランが課せられた。</p>					

EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム EF EDUCATION-NIPPO DEVELOPMENT TEAM (USA)



●選手/RIDER

岡 篤志
OKA Atsushi
織田 聖
ODA Hijiri
門田 祐輔
KADOTA Yusuke
留目 夕陽
TODOME Yuhi
山田 拓海
YAMADA Takumi

●監督/SPORTS DIRECTOR

大門 宏
DAIMON Hiroshi

愛三工業レーシングチーム AISAN RACING TEAM



●選手/RIDER

鈴木 譲
SUZUKI Yuzuru
渡邊 翔太郎
WATANABE Shotaro
草場 啓吾
KUSABA Keigo
中川 拳
NAKAGAWA Ken
渡邊 歩
WATANABE Ayumu

●監督/SPORTS DIRECTOR

別府 匠
BEPPU Takumi

キナンレーシングチーム KINAN RACING TEAM



●選手/RIDER

ガルシア マルコス
GARCIA FERNANDEZ Marcos
ルバトマ
LEBAS Thomas
山本 元喜
YAMAMOTO Genki
新城 雄大
ARASHIRO Yudai
山本 大喜
YAMAMOTO Masaki

●監督/SPORTS DIRECTOR

石田 哲也
ISHIDA Tetsuya

マトリックスパワータグ MATRIX POWERTAG



●選手/RIDER

マンセボ ベレス フランシスコ
MANCEBO PEREZ Francisco
トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ
TORIBIO ALCOLEA Jose Vicente
安原 大貴
YASUHARA Daiki
小森 亮平
KOMORI Ryohei
キンテロ アルテア-ガレオネル アレクサンダー
QUINTERO ARTEAGA Leonel

●監督/SPORTS DIRECTOR

安原 昌弘
YASUHARA Masahiro

那須ブラーゼン NASU BLASEN



●選手/RIDER

谷 順成
TANI Junsei
西尾 勇人
NISHIO Hayato
金子 大介
KANEKO Daisuke
佐藤 大志
SATO Hiroshi
西尾 憲人
NISHIO Keito

●監督/SPORTS DIRECTOR

若杉 厚仁
WAKASUGI Atsuhito

シマノレーシング SHIMANO RACING



●選手/RIDER

横山 航太
YOKOYAMA Kota
中井 唯晶
NAKAI Tadaaki
風間 翔真
KAZAMA Shoma
床井 亮太
TOKOI Ryota
湊 諒
MINATO Ryo

●監督/SPORTS DIRECTOR

野寺 秀徳
NODERA Hidenori

チームブリヂストンサイクリング TEAM BRIDGESTONE CYCLING



●選手/RIDER

今村 駿介
IMAMURA Shunsuke
窪木 一茂
KUBOKI Kazushige
橋本 英也
HASHIMOTO Eiya
松田 祥位
MATSUDA Shoi
山本 哲央
YAMAMOTO Tetsuo

●監督/SPORTS DIRECTOR

宮崎 景涼
MIYAZAKI Keisuke

宇都宮ブリッツェン UTSUNOMIYA BLITZEN



●選手/RIDER

増田 成幸
MASUDA Nariyuki
阿部 嵩之
ABE Takayuki
堀 孝明
HORI Takaaki
小野寺 玲
ONODERA Rei

●監督/SPORTS DIRECTOR

清水 裕輔
SHIMIZU Yusuke

北海道地域選抜 SELECTED HOKKAIDO



選手 / RIDER

堂田 恭平
DOTA Kyohei
牧野 郁斗
MAKINO Fumito
島野 翔汰
SHIMANO Shota
小橋 勇利
KOBASHI Yuri
平口 泰輔
HIRAGUCHI Taisuke

監督 / SPORTS DIRECTOR

坂上 信也
SAKAGAMI Shinya

日本大学 NIHON UNIVERSITY



選手 / RIDER

谷 彰太
TANI Shota
北宅 柊麻
KITAYA Toma
岡本 勝哉
OKAMOTO Katsuya
北嶋 桂大
KITASHIMA Keita
新井 敬太
ARAI Keita

監督 / SPORTS DIRECTOR

井上 由大
INOUE Yoshihiro

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY



選手 / RIDER

小堀 敢太
KOBORI Kanta
山口 順也
YAMAGUCHI Junya
廣中 聖
HIRONAKA Hijiri
中村 栄杜
NAKAMURA Eito
石橋 慧悟
ISHIBASHI Keigo

監督 / SPORTS DIRECTOR

秋田 謙
AKITA Ken

日本体育大学 NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY



選手 / RIDER

松原 颯祐
MATSUBARA Sosuke
比嘉 祐喜
HIGA Yuki
藤井 涼介
FUJII Ryosuke
玉城 翔太
TAMASHIRO Shota
福田 晃司
FUKUDA Koji

監督 / SPORTS DIRECTOR

西山 哲成
NISHIYAMA Tetsunari

鹿屋体育大学 NATIONAL INSTITUTE OF FITNESS & SPORTS IN KANOYA



選手 / RIDER

道見 優太
DOMI Yuta
大河内 将博
OKOCHI Masahiro
津留 峻
TSUDOME Ryo
福迫 侍輔
FUKUZAKO Kousuke

監督 / SPORTS DIRECTOR

山口 大貴
YAMAGUCHI Hiroki

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO



選手 / RIDER

金子 宗平
KANEKO Sohei
小島 誠太
OJIMA Seita
篠崎 蒼平
SHINOZAKI Sohei
西村 明展
NISHIMURA Akihiro
長坂 和輝
NAGASAKA Kazuki

監督 / SPORTS DIRECTOR

三宅 秀一郎
MIYAKE Shuichiro

第1ステージ

Stage 1

9/9 Fri Start 9:30
171km Road Race



札幌市(豊滝除雪ステーション)→小樽市→赤井川村→仁木町→余市町
→古平町→神恵内村→泊村→共和町(生涯学習センター)

■レースの概要

9時30分に札幌市豊滝除雪ステーションを14チーム、67名がスタート。札幌市9時現在、天気晴、気温23℃ 東南東の風1.4m。3.3kmのパレード走行の後、9時37分にリアルスタートが切られる。2名が先行し、メイン集団と1分前後の差を維持したままレースが進む。

KOM1手前で先行する2名は集団に吸収される。KOM1の「朝里峠」は山本元喜(KIN)が1位通過。その後、約30名の先頭集団が小樽市望洋台のHS1に向かい、集団から抜け出した岡篤志(EFD)がトップで通過する。急こう配ののぼりが続くKOM2「毛無峠」では、キンテロ アルテアーガ レオネル アレクサンダー(MTR)がトップ通過。続く余市町のHS2もキンテロ(MTR)がトップで通過する。

KOM3の「当丸峠」へ向かう登りで、17名の先頭集団が崩壊し始める。最後の山岳ポイントはチームのサポートを受け、山本大喜(KIN)がトップで通過する。残り約18kmで先頭は9名になり、残り10kmを通過した時点で、先頭の9名から山本大喜(KIN)、今村駿介(BGT)、増田成幸(BLZ)が抜け出す。残り3km、先頭3名は後続と55秒の差をつけて逃げる。フィニッシュ前300mの直線で今村俊介(BGT)が先頭でスプリントを開始しそのまま逃げ切りゴールした。(完走48名)

- 第1位 今村 駿介(BGT)
- 第2位 増田 成幸(BLZ) ビハインド0秒
- 第3位 山本 大喜(KIN) ビハインド0秒



出走サインに代えて義務的通過地点での確認



スタート前北海道カップ越しの選手たち



山本大会長からスタート前の挨拶



札幌市スポーツ局
佐藤スポーツ部長によるスタートの合図



札幌市豊滝除雪ステーションをスタート



札幌市パレード走行



さっぽろ湖第1展望台から12.6km付近



朝里ダム朝里スカイループを走る隊列38km付近



高橋神恵内村長はじめ皆さんの応援



共和町選手を待ってる観客



共和町フィニッシュ前最終コーナー



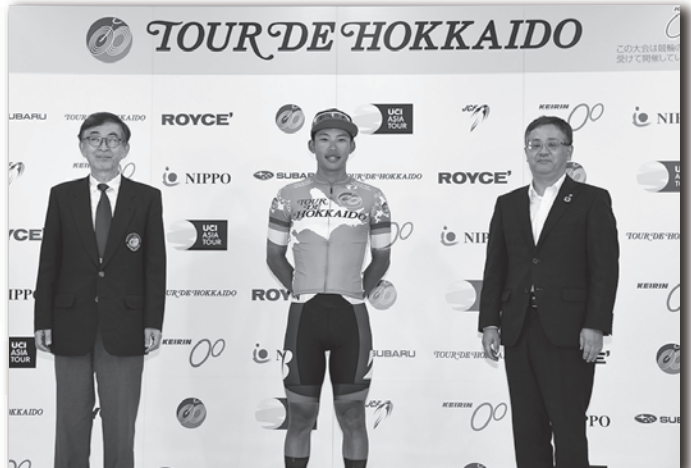
フィニッシュ前のスプリント



スプリント勝負を制した
今村 駿介(BGT)



挨拶
成田 慎一 共和町長



個人総合時間賞
今村 駿介(BGT)



個人区間2位
増田 成幸(BLZ)



個人区間3位
山本 大喜(KIN)



個人総合ポイント賞1位
今村 駿介(BGT)



個人総合山岳賞1位
山本 大喜(KIN)

Stage 1 競技結果		
■個人区間順位		
1位	今村 駿介(チームプリチストンサイクリング)	4:01'08"
2位	増田 成幸(宇都宮ブリッツェン)	
3位	山本 大喜(キナンレーシングチーム)	
■個人区間山岳賞		
1位	山本 大喜(キナンレーシングチーム)	10pts
■個人総合時間順位		
1位	今村 駿介(チームプリチストンサイクリング)	4:00'58"
2位	増田 成幸(宇都宮ブリッツェン)	
3位	山本 大喜(キナンレーシングチーム)	
■個人総合ポイント賞		
1位	今村 駿介(チームプリチストンサイクリング)	25pts
■個人総合山岳賞		
1位	山本 大喜(キナンレーシングチーム)	10pts

第2ステージ

Stage 2

9/10 Sat Start 9:30
186km Road Race

倶知安町(ニセコグラン・ヒラフスキー場)→共和町→蘭越町→ニセコ町→豊浦町
→洞爺湖町→真狩村→倶知安町(ニセコグラン・ヒラフスキー場)



■レースの概要

第2ステージは、倶知安町のニセコグラン・ヒラフスキー場前をスタートし、再びニセコグラン・ヒラフスキー場に戻る設定で、186kmとなる今大会最長のコースである。倶知安町9時現在、天気晴、気温20.7℃、北北西の風4.5m。目の覚めるような青空の下、9時30分に13チーム、48名がスタート。

9時36分、2.8km地点でリアルスタート。14km過ぎ、集団から7名が抜け出す。40.6km地点のKOM「新見峠」への登坂で、先頭集団からトリビオ アルコア ホセ ヴィセンテ (MTR) が抜け出し、そのまま余裕をもって1位通過。KOMからの下りで猛追した2位集団がトリビオ アルコア (MTR) を吸収し、その後先頭集団は6名となる。メイン集団とのタイム差は2分40秒。蘭越町のHS1はトリビオ アルコア (MTR) が1位通過。逃げ切りを狙う先頭集団であったが、メイン集団から抜け出した選手が先頭集団をとらえ16名になって、真狩村のHS2を通過し岡篤志 (EFD) がトップを奪う。

先頭集団は、EF エデュケーション-NIPPOディベロップメントチームとキナンレーシングチームがコントロールしている。残り10kmを切り、先頭集団とメイン集団は4分以上の差ができる。先頭集団が残り600mで左折してひらふ坂に入ってくる。ゴール前で先行するキンテロ アルテアーガ レオネル アレクサンダー (MTR) を谷順成 (NAS) と門田祐輔 (EFD) が追い、谷順成 (NAS) が一つ抜け出して優勝を勝ち取った。(完走46名)

- 第1位 谷 順成 (NAS)
- 第2位 門田 祐輔 (EFD) ビハインド0秒
- 第3位 ルバ トマ (KIN) ビハインド5秒



リーダージャージの3人



文字一志倶知安町長による
スタートの台詞



快晴の空の下、ニセコグランヒラフスキー場をスタート



倶知安町 パレード走行



倶知安町 羊蹄山をバックに 7km付近



共和町 ニセコパノラマライン40km付近



蘭越町 尻別川沿い72km付近



ニセコ町 アンヌプリをバックに108km付近



真狩村 ホットスポット前162km付近



真狩村 沿道の応援



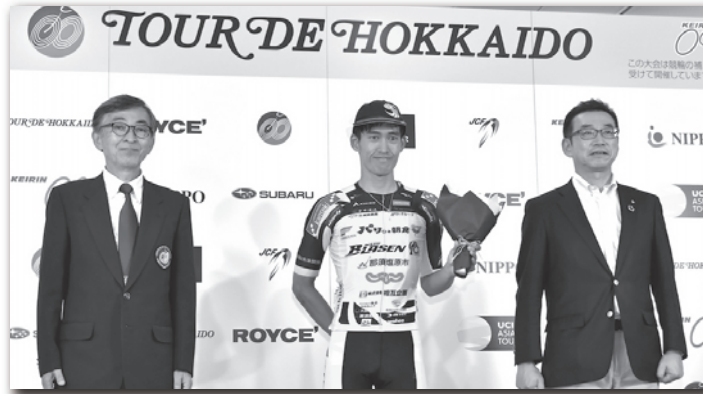
ひらふ坂に向かう最後のコーナーを曲がる



ひらふ坂を逃げ切った
谷 順成(NAS)



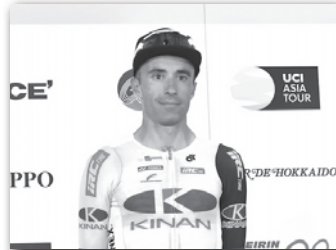
挨拶
文字一志倶知安町長



個人区間1位
谷 順成(NAS)



個人区間2位
門田 祐輔(EFD)



個人区間3位
ルバ トマ(KIN)



個人区間山岳賞1位
トリビオアルコレアホセヴィセンテ(MTR)



個人総合ポイント賞1位
谷 順成(NAS)



個人総合山岳賞1位
トリビオアルコレアホセヴィセンテ
(MTR)



個人総合時間賞1位
門田 祐輔
(EFD)

Stage2 競技結果	
■個人区間順位	
1位 谷 順成(那須ブラーゼン)	4:35'29"
2位 門田 祐輔(EFエデュケーション-NIPPO デvelopメントチーム)	
3位 ルバ トマ(キナンレーシングチーム)	
■個人区間山岳賞	
1位 トリビオアルコレアホセヴィセンテ(マトリックスパワータグ)	10pts
■個人総合時間順位	
1位 門田 祐輔(EFエデュケーション-NIPPO デvelopメントチーム)	8:37'02"
2位 ルバ トマ(キナンレーシングチーム)	
3位 松田 祥位(チームプリチストーンサイクリング)	
■個人総合ポイント賞	
1位 谷 順成(那須ブラーゼン)	32pts
■個人総合山岳賞	
1位 トリビオアルコレアホセヴィセンテ(マトリックスパワータグ)	10pts

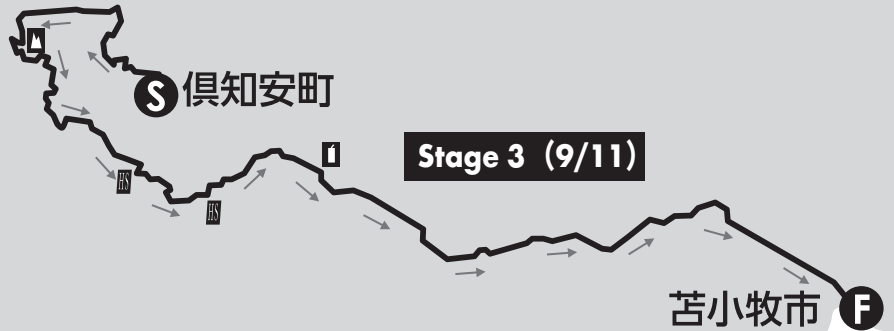
第3ステージ

Stage 3

9/11 Sun Start 9:30

173km Road Race

倶知安町(ニセコグラン・ヒラフスキー場)→共和町→蘭越町→ニセコ町→真狩村
→喜茂別町→伊達市→千歳市→苫小牧市(緑ヶ丘公園)



■レースの概要

第3ステージも前日と同じく、ニセコグラン・ヒラフスキー場前から13チーム、46名が9時30分スタート。倶知安町9時現在、天気晴、気温20.5℃、北北東の風1m。9時35分、前日と同地点でリアルスタート。10km付近で今村駿介(BGT)、ガルシア マルコス(KIN)が抜け出し、先頭2名と8名の追走集団ができる。10時3分、追走8名は先頭に追い付き、10名の先頭集団を形成。先頭集団から4名が抜け出し、KOMを目指す。大会最後となるKOM「神仙沼駐車場前」は、ガルシア(KIN)が抜け出して単独先頭通過する。その後先頭集団は再び10名となり、ニセコ町のHS1へ。山本大喜(KIN)が1位で通過する。メイン集団は先頭集団と2分40秒の差でHS1を通過。先頭は10名を維持したままHS2へ。大会最後の真狩村のHS2を制したのは山本大喜(KIN)。

レースは終盤に差し掛かり、残り40kmで先頭は2名。26秒差の2位集団は6名、メイン集団は3分30秒差で後を追う。支笏湖畔の残り25km付近で先頭集団は8名となる。残り3km地点を、メイン集団がトップと1分30秒差で通過するが、先頭集団に追い付くことができない。苫小牧市緑ヶ丘公園に入りラスト500mは先頭8名でのスプリント勝負となる。接戦を制したのは今村駿介(BGT)で、第1ステージに続き2勝目を挙げた。(完走37名)

- 第1位 今村 俊介(BGT)
- 第2位 中井 唯晶(SMN) ビハインド0秒
- 第3位 ガルシア マルコス(KIN) ビハインド0秒



スタートゲートより羊蹄山を望む



リーダージャージの3人



文字一志倶知安町長によるスタートの合図



倶知安町 パレード走行



蘭越町 パノラマライン 51km付近



真狩村 ホットスポット前 83km付近



喜茂別町中里 102km付近



フィニッシュ沿道の応援



接戦のフィニッシュ前



僅差で今村駿介(BGT)がゴール



個人区間1位
今村 駿介(BGT)



個人区間2位
中井 唯晶(SMN)



個人区間3位及び個人区間山岳賞1位
ガルシア マルコス(KIN)

Stage 3 競技結果

■個人区間順位

- 1位 今村 駿介 (チームブリヂストンサイクリング) 4:14'35"
- 2位 中井 唯晶 (シマノレーシング)
- 3位 ガルシア マルコス (キナンレーシングチーム)

■個人区間山岳賞順位

- 1位 ガルシア マルコス (キナンレーシングチーム) 10pts

最終表彰式 2022

OVERALL AWARDS CEREMONY

9/11 Sun 苫小牧市緑ヶ丘公園ハイランドスポーツセンター

ツール・ド・北海道2022の表彰式は無観客で実施したが、表彰式の模様はYouTubeでライブ配信を行った。最終表彰式は苫小牧市緑ヶ丘公園内の「ハイランドスポーツセンター」で開催された。冒頭、開催地を代表して岩倉博文苫小牧市長から、3日間の熱い闘いを終えた選手に労いの言葉が添えられた挨拶を受けた後、表彰式を始めた。

個人総合時間賞は、第2ステージからのグリーンジャージを守り、EFエデュケーション-NIPPOディベロップメントチームの門田祐輔選手が獲得し、北海道カップを手にした。

個人総合ポイント賞は、チームプリヂェストンサイクリングの今村駿介選手。個人総合山岳賞は、EFエデュケーション-NIPPO ディベロップメントチームの留目夕陽選手。

団体総合時間賞は、キナンレーシングチーム。U26団体総合時間賞は、EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチームが獲得した。

最後に山本隆幸大会長から、選手及び大会関係者全てに向けての感謝のメッセージが伝えられ、3年ぶりのツール・ド・北海道2022は終了した。



岩倉博文苫小牧市長からの挨拶



山本大会長から
来年の再会を約束し感謝の挨拶
(公益財団法人ツール・ド・北海道協会理事長)



藤森チーフコミセールを交えて

総合（最終）成績

個人総合時間賞順位

- 1位 門田 祐輔(EFエデュケーション-NIPPOディベロップメントチーム) 12:52'41"
- 2位 ルバ トマ(キナンレーシングチーム)
- 3位 松田 祥位(チームプリヂェストンサイクリング)
- 4位 谷 順成(那須ブラーゼン)
- 5位 今村 駿介(チームプリヂェストンサイクリング)
- 6位 山本 大喜(キナンレーシングチーム)
- 7位 ガルシア マルコス(キナンレーシングチーム)
- 8位 増田 成幸(宇都宮ブリツェン)
- 9位 トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ(マトリックスパワータグ)
- 10位 マンセボ ペレス フランシスコ(マトリックスパワータグ)

個人総合ポイント賞順位

- 1位 今村 駿介(チームプリヂェストンサイクリング) 54pts
- 2位 山本 大喜(キナンレーシングチーム)
- 3位 谷 順成(那須ブラーゼン)

個人総合山岳賞順位

- 1位 留目 夕陽(EFエデュケーション-NIPPOディベロップメントチーム) 16pts
- 2位 トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ(マトリックスパワータグ)
- 3位 渡邊 翔太郎(愛三工業レーシングチーム)

団体総合時間賞順位

- 1位 キナンレーシングチーム 38:41'34"
- 2位 EFエデュケーション-NIPPOディベロップメントチーム
- 3位 マトリックスパワータグ

U26団体総合時間賞順位

- 1位 EFエデュケーション-NIPPOディベロップメントチーム 38:50'26"



個人総合優勝
門田 祐輔
EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム



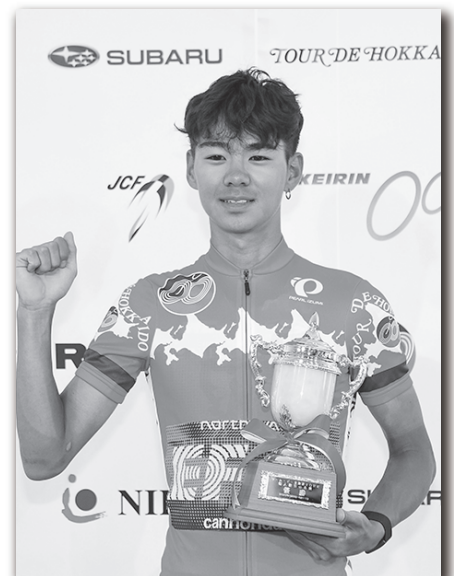
個人総合時間賞
2位 ルバトマ
キナンレーシングチーム



個人総合時間賞
3位 松田 祥位
チームプリヂェストンサイクリング



個人総合ポイント賞
今村 駿介
チームプリヂェストンサイクリング



個人総合山岳賞
留目 夕陽
EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム



団体総合時間賞
キナンレーシングチーム



U26団体総合時間賞
EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム

2022最終成績

FINAL RESULTS



個人総合時間賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total	Behind
1	3	門田 祐輔	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	12:52'41"	0'00"
2	22	ルバ トマ	キナンレーシングチーム	12:52'46"	0'05"
3	64	松田 祥位	チームブリヂストンサイクリング	12:53'10"	0'29"
4	41	谷 順成	那須ブラーゼン	12:53'56"	1'15"
5	61	今村 駿介	チームブリヂストンサイクリング	12:55'43"	3'02"
6	25	山本 大喜	キナンレーシングチーム	12:55'53"	3'12"
7	21	ガルシア マルコス	キナンレーシングチーム	12:56'28"	3'47"
8	81	増田 成幸	宇都宮ブリッツェン	12:57'06"	4'25"
9	32	トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	12:57'13"	4'32"
10	31	マンセボ ベレス フランシスコ	マトリックスパワータグ	12:57'38"	4'57"
11	35	キンテロ アルテアアーガ レオネル アレクサンダー	マトリックスパワータグ	12:58'25"	5'44"
12	12	渡邊 翔太郎	愛三工業レーシングチーム	12:58'40"	5'59"
13	1	岡 篤志	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	12:58'44"	6'03"
14	2	織田 聖	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	12:58'49"	6'08"
15	4	留目 夕陽	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	12:58'50"	6'09"
16	45	西尾 憲人	那須ブラーゼン	12:59'05"	6'24"
17	52	中井 唯晶	シマノレーシング	12:59'28"	6'47"
18	24	新城 雄大	キナンレーシングチーム	13:01'50"	9'09"
19	15	渡邊 歩	愛三工業レーシングチーム	13:01'56"	9'15"
20	13	草場 啓吾	愛三工業レーシングチーム	13:03'00"	10'19"
21	84	小野寺 玲	宇都宮ブリッツェン	13:03'48"	11'07"
22	51	横山 航太	シマノレーシング	13:04'23"	11'42"
23	103	岡本 勝哉	日本大学	13:05'43"	13'02"
24	92	牧野 郁斗	北海道地域選抜	13:09'07"	16'26"
25	11	鈴木 譲	愛三工業レーシングチーム	13:10'01"	17'20"
26	44	佐藤 大志	那須ブラーゼン	13:12'06"	19'25"
27	23	山本 元喜	キナンレーシングチーム	13:12'59"	20'18"
28	121	松原 颯祐	日本体育大学	13:14'35"	21'54"
29	141	金子 宗平	東京大学	13:16'10"	23'29"
30	42	西尾 勇人	那須ブラーゼン	13:16'12"	23'31"
31	5	山田 拓海	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	13:18'40"	25'59"
32	14	中川 拳	愛三工業レーシングチーム	13:19'59"	27'18"
33	94	小橋 勇利	北海道地域選抜	13:21'12"	28'31"
34	125	福田 晃司	日本体育大学	13:22'14"	29'33"
35	53	風間 翔真	シマノレーシング	13:22'40"	29'59"
36	55	湊 諒	シマノレーシング	13:24'03"	31'22"
37	82	阿部 嵩之	宇都宮ブリッツェン	13:31'08"	38'27"

個人総合ポイント賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total
1	61	今村 駿介	チームブリヂストンサイクリング	54
2	25	山本 大喜	キナンレーシングチーム	44
3	41	谷 順成	那須ブラーゼン	32
4	52	中井 唯晶	シマノレーシング	32
5	21	ガルシア マルコス	キナンレーシングチーム	31
6	22	ルバ トマ	キナンレーシングチーム	31
7	3	門田 祐輔	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	30
8	32	トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	29
9	64	松田 祥位	チームブリヂストンサイクリング	27
10	35	キンテロ アルテアアーガ レオネル アレクサンダー	マトリックスパワータグ	24
11	81	増田 成幸	宇都宮ブリッツェン	21
12	1	岡 篤志	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	18
13	84	小野寺 玲	宇都宮ブリッツェン	15
14	141	金子 宗平	東京大学	12
15	13	草場 啓吾	愛三工業レーシングチーム	10
16	51	横山 航太	シマノレーシング	9
17	44	佐藤 大志	那須ブラーゼン	9
18	4	留目 夕陽	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	9
19	31	マンセボ ベレス フランシスコ	マトリックスパワータグ	8
20	2	織田 聖	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	7
21	12	渡邊 翔太郎	愛三工業レーシングチーム	6
22	94	小橋 勇利	北海道地域選抜	5
23	15	渡邊 歩	愛三工業レーシングチーム	4
24	45	西尾 憲人	那須ブラーゼン	3
25	5	山田 拓海	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	3
26	24	新城 雄大	キナンレーシングチーム	2
27	55	湊 諒	シマノレーシング	1
-	125	福田 晃司	日本体育大学	-5

個人総合山岳賞

Pl.	Num	選手名	チーム名	Total
1	4	留目 夕陽	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	16
2	32	トリビオ アルコレア ホセ ヴィセンテ	マトリックスパワータグ	14
3	12	渡邊 翔太郎	愛三工業レーシングチーム	13
4	21	ガルシア マルコス	キナンレーシングチーム	12
5	25	山本 大喜	キナンレーシングチーム	10
6	24	新城 雄大	キナンレーシングチーム	8
7	35	キンテロ アルテアールガ レオネル アレクサンダー	マトリックスパワータグ	7
8	23	山本 元喜	キナンレーシングチーム	7
9	81	増田 成幸	宇都宮ブリッツェン	6
10	55	湊 諒	シマノレーシング	6
11	5	山田 拓海	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	4
12	82	阿部 嵩之	宇都宮ブリッツェン	4
13	22	ルバ トマ	キナンレーシングチーム	3
14	61	今村 駿介	チームブリヂストンサイクリング	3
15	3	門田 祐輔	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	2
16	51	横山 航太	シマノレーシング	2
17	31	マンセボ ベレス フランシスコ	マトリックスパワータグ	1
18	52	中井 唯晶	シマノレーシング	1

団体総合時間賞

Pl.	チーム名	Total	Behind
1	キナンレーシングチーム	38:41'34"	
2	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	38:50'21"	8'47"
3	マトリックスパワータグ	38:53'22"	11'48"
4	那須ブラーゼン	38:59'41"	18'07"
5	愛三工業レーシングチーム	39:03'12"	21'38"
6	シマノレーシング	39:13'15"	31'41"
7	宇都宮ブリッツェン	39:32'11"	50'37"

U26団体総合時間賞

Pl.	チーム名	Total	Behind
1	EF エデュケーション-NIPPO ディベロップメントチーム	38:50'26"	

ツール・ド・北海道 2022 広報



●2022 ポスター



●2022 ガイドブック



●ウェブサイト トップページ



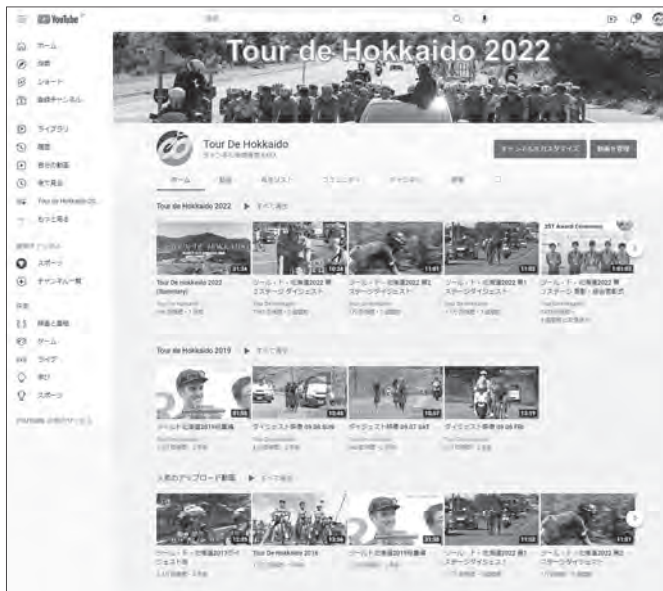
●Facebookから情報発信



●Instagramから情報発信



●Twitterから情報発信



●YouTubeから情報発信

ツールド・北海道 2022 報道・広報-1

ツールド・北海道2022 9月9日金

第36回 交通規制のお知らせ Announcement of traffic restriction 9:20~14:00ころ

自転車ロードレース 第1ステージ 距離171km Stage1 Distance 171km

スタート Start 札幌市 Sapporo

ゴール Goal 小樽市 Oshima

通過する町市町村 Through Towns/Cities/Villages: 小樽市 Oshima, 赤井川村 Akakawa, 仁木町 Niiki, 常呂町 Joze, 古平町 Furuhira, 神恵内村 Kamikamoi, 泊村 Utsunomiji, 共和町 Kyowa

ご協力をお願いします
第1ステージの概要 Stage 1 Overview

このステージは、札幌市をスタートとし、道庁管内を走り、小樽市をゴールとする。道庁管内を走る約171kmのコースには、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。また、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。また、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。

交通規制のお知らせ
この大会は、主催者の都合により変更される場合があります。最新の情報は主催者のホームページに掲載されています。また、大会当日は、主催者のホームページに掲載されている通り、交通規制が行われます。ご了承ください。

©2021 ツールド・北海道株式会社 TEL 011-222-5822 <https://www.tour-de-hokkaido.jp>

NIPPO ROYCE SUBARU 原動力の真実事業 この大会は、賛助の協力を得て実施します。 <http://www.bikecycle.jp>

●交通規制広告-1

ツールド・北海道2022 9月10日土

第36回 交通規制のお知らせ Announcement of traffic restriction 9:20~14:20ころ

自転車ロードレース 第2ステージ 距離186km Stage2 Distance 186km

スタート Start 共和町 Kyowa

ゴール Goal 釧路市 Kamikawa

通過する町市町村 Through Towns/Cities/Villages: 共和町 Kyowa, 蘭越町 Ranzouji, ニセコ町 Niseko, 豊浦町 Toyohara, 栗駒町 Katsuragi, 鹿野村 Kano, 釧路市 Kamikawa, 釧路市 Kamikawa

ご協力をお願いします
第2ステージの概要 Stage 2 Overview

このステージは、共和町をスタートとし、釧路市をゴールとする。道庁管内を走る約186kmのコースには、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。また、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。

交通規制のお知らせ
この大会は、主催者の都合により変更される場合があります。最新の情報は主催者のホームページに掲載されています。また、大会当日は、主催者のホームページに掲載されている通り、交通規制が行われます。ご了承ください。

©2021 ツールド・北海道株式会社 TEL 011-222-5822 <https://www.tour-de-hokkaido.jp>

NIPPO ROYCE SUBARU 原動力の真実事業 この大会は、賛助の協力を得て実施します。 <http://www.bikecycle.jp>

●交通規制広告-2

ツールド・北海道2022 9月11日日

第36回 交通規制のお知らせ Announcement of traffic restriction 9:20~14:10ころ

自転車ロードレース 第3ステージ 距離174km Stage3 Distance 174km

スタート Start 釧路市 Kamikawa

ゴール Goal 苫小牧市 Tomakomai

通過する町市町村 Through Towns/Cities/Villages: 釧路市 Kamikawa, 共和町 Kyowa, 蘭越町 Ranzouji, ニセコ町 Niseko, 豊浦町 Toyohara, 栗駒町 Katsuragi, 鹿野村 Kano, 釧路市 Kamikawa, 釧路市 Kamikawa, 伊達市 Itadaki, 千歳市 Chitose, 苫小牧市 Tomakomai, 苫小牧市 Tomakomai

ご協力をお願いします
第3ステージの概要 Stage 3 Overview

このステージは、釧路市をスタートとし、苫小牧市をゴールとする。道庁管内を走る約174kmのコースには、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。また、道庁管内の主要な道路や、観光地や自然豊かな場所を走る。

交通規制のお知らせ
この大会は、主催者の都合により変更される場合があります。最新の情報は主催者のホームページに掲載されています。また、大会当日は、主催者のホームページに掲載されている通り、交通規制が行われます。ご了承ください。

©2021 ツールド・北海道株式会社 TEL 011-222-5822 <https://www.tour-de-hokkaido.jp>

NIPPO ROYCE SUBARU 原動力の真実事業 この大会は、賛助の協力を得て実施します。 <http://www.bikecycle.jp>

●交通規制広告-3

札幌市南区の豊滝除雪ステーションを一齐にスタートする選手たち（井上浩明撮影）



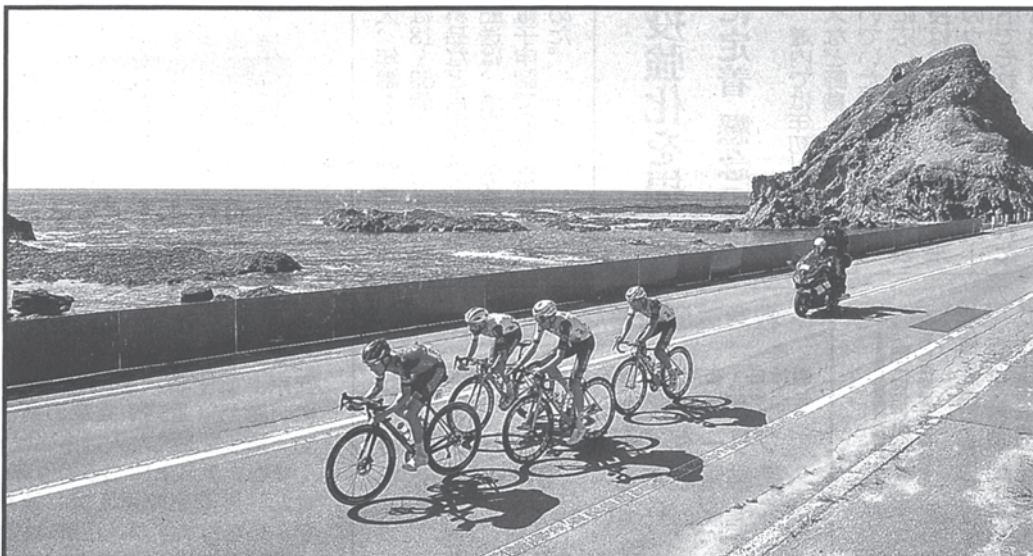
秋晴れ 風切り駆ける ツール・ド・北海道開幕

国内最大級のステージ制自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2022」（ツール・ド・北海道協会主催、日本自転車競技連盟競技主管、北海道新聞社特別協力）が9日、札幌市南区の豊滝除雪ステーションで開幕した。20年、21年は新型コロナウイルスの影響で中止となったため、3年ぶりの開催となる。

3日間のレースの初日は、後志管内共和町生涯学習センターまでの第1ステージ、171キロ（パレード区間含む）。曇一つない晴天の下、午前9時半に国内外の14チーム、68人が一齐にスタートした。新型コロナウイルス感染防止のため、選手やスタッフの健康管理のほか、スタート会場を原則無観客とするなどの対策をとった。

今回で36回目の大会は、道央の5市10町4村が舞台で、中止となった前回とほぼ同じコース。3日間で3ステージ、計530キロ（パレード区間を含む）を走り、苫小牧市緑ヶ丘公園のゴールを目指す。

●9/9 北海道新聞(夕刊)



＝ツール・ド・北海道提供

3年ぶり 530キロ疾走 ツール・ド・北海道開幕

自転車の国際レース「ツール・ド・北海道」が9日開幕した。コロナ禍で中止が続き、開催は3年ぶり。選手たちは3日間、走行距離530キロの総合優勝をめざしてスタートを切った。

36回目の今大会には、海外チーム1チームを含む計14チームが出場。9日午前9時半、

札幌市南区豊滝を出発し、第1日のゴール地点・共和町をめざした。

道央や標高差のあるニセコ山系の地域を中心とした5市10町4村を走り抜けるコースで争われ、最終日の11日午後に苫小牧市緑ヶ丘公園にゴールする。（能田英二）

●9/10 朝日新聞

谷混戦制す 第2S

自転車

ツール・ド・北海道2022(10日・後志管内倶知安町・倶知安町) 第2日は186km(パレド区間含む)の第2ステージを行い、谷順成(那須アライゼン)が4時間35分29秒で優勝を飾った。2位は門田祐輔(EFエデュケーショナル・NIPPO)、3位はルバ・トマ(フランス・キナン)。

9日の第1ステージに続き、第2ステージも最後までもつれるレースとなった。残り約45km地点で序盤から逃げていた選手を吸収し形成された先頭集団が、終盤までデッドヒートを繰り返した。アタックの掛け合いの中、ゴール直前の上り坂で抜けた谷が優勝を果たした。

11日の第3ステージは、第2ステージと同じく後志管内倶知安町のニセコグラウンドで行われる。第2ステージは、第2ステージも最後までもつれるレースとなった。残り約45km地点で序盤から逃げていた選手を吸収し形成された先頭集団が、終盤までデッドヒートを繰り返した。アタックの掛け合いの中、ゴール直前の上り坂で抜けた谷が優勝を果たした。



「チームで勝った」

レースは最後の上り坂まで先頭集団内で駆け引きが繰り返される熱戦となった。残り300mを切った

管内倶知安町のニセコグラウンドで行われる。第2ステージは、第2ステージも最後までもつれるレースとなった。残り約45km地点で序盤から逃げていた選手を吸収し形成された先頭集団が、終盤までデッドヒートを繰り返した。アタックの掛け合いの中、ゴール直前の上り坂で抜けた谷が優勝を果たした。

地点で、それまで足をためていた谷が一気にペダルを踏み込み、1位でゴールに帰ってきた。

「チームで勝った。谷はチームメイトへの感謝の言葉を口にした。前日のレースでは、軽い脱水状態になり、終盤にペースを落としてしまった。そこで第2ステージではレース中、できる限り体力と足を温存するため、新しい飲料水のボトルを自分で審判の所に取りに行かず、チームメイトの西尾憲人(札幌北高田)に取って来てもらうなどの作戦をとった。谷は西尾がゴールすると駆け寄り、互いの健康をたてあそびた。

第2ステージを終え、総合ポイント賞の青ジャージを手にしたが、チームの目標は谷の総合優勝。「ジャージを守るのではなく、トライしていく気持ちを持ちたい」と最終日の栄光を見据えた。(安沢悠太)

●9/11 北海道新聞

門田 総合優勝

自転車

ツール・ド・北海道2022(11日・後志管内倶知安町・苫小牧市) 最終日は143km(パレド区間含む)の第3ステージを行った。個人総合首位で臨んだ門田祐輔(EFエデュケーショナル・NIPPO)は、第3ステージから1分4秒遅れの15位でゴールしたが、第2ステージまでのリードを守り切り、12時間52分41秒で初優勝を果たした。第3ステージは、今村駿介(チームフリヂストン)が1位となった。

11日の第3ステージは、第2ステージと同じく後志管内倶知安町のニセコグラウンドで行われる。第2ステージは、第2ステージも最後までもつれるレースとなった。残り約45km地点で序盤から逃げていた選手を吸収し形成された先頭集団が、終盤までデッドヒートを繰り返した。アタックの掛け合いの中、ゴール直前の上り坂で抜けた谷が優勝を果たした。



チームメイトと喜びを分かち合う門田祐輔(大島拓人撮影)

残り約30km地点で、逃げていた選手を追いかけた集団が吸収された。そのまま終盤まで集団で走行し、最後のスプリント勝負を制した今村が勝利を手にした。

第3ステージ成績:
 △個人区間首位 ①今村駿介(チームフリヂストン) 4時間14分35秒
 △個人総合首位 ①今村駿介(チームフリヂストン) 12時間52分41秒
 △個人総合2位 ②門田祐輔(EFエデュケーショナル・NIPPO) 12時間54分05秒
 △個人総合3位 ③山本大(キナン) 12時間54分10秒
 △個人総合4位 ④谷順成(那須アライゼン) 12時間54分15秒
 △個人総合5位 ⑤門田祐輔(EFエデュケーショナル・NIPPO) 12時間54分20秒
 △個人総合6位 ⑥山本大(キナン) 12時間54分25秒
 △個人総合7位 ⑦谷順成(那須アライゼン) 12時間54分30秒
 △個人総合8位 ⑧門田祐輔(EFエデュケーショナル・NIPPO) 12時間54分35秒
 △個人総合9位 ⑨山本大(キナン) 12時間54分40秒
 △個人総合10位 ⑩谷順成(那須アライゼン) 12時間54分45秒

初出場のツール・ド・北海道で総合優勝を果たした門田は「想定通りの展開でできた」と第3ステージを冷静に振り返った。

第2ステージ終了時点で個人総合首位に立ったアドバンテージを生かした。レースはパレド区間が終了し、すぐ逃げる選手が出るなど、序盤から激しい展開となったが、門田は落ち着いていて、逃げた選手を追っていた。逃げた選手と追走した第2集団に、総合時間で見据えた。

●9/12 北海道新聞(夕刊)

「リード守り」「想定通り」

門田は「想定通りの展開でできた」と第3ステージを冷静に振り返った。第2ステージ終了時点で個人総合首位に立ったアドバンテージを生かした。レースはパレド区間が終了し、すぐ逃げる選手が出るなど、序盤から激しい展開となったが、門田は落ち着いていて、逃げた選手を追っていた。逃げた選手と追走した第2集団に、総合時間で見据えた。

「チームメイトにメイン集団の先頭を走ってもらい、先を逃げる選手たちとの時間差を調整した。レース中は「焦るな」とチームメイトに声をかけ続けた。レース後、門田は仲間を信じ、落ち着いて走れた」と優勝の要因を語った。

門田は「また実感がなく、かみしめつつも、次のレースでも結果を残したい」と先を見据えた。

(安沢悠太)

ツール・ド北海道が 開催されます

国際自転車競技連合公認の自転車ロードレース「ツール・ド北海道」が9月9日(金)～11日(日)までの3日間で開催されます。今大会は、国内外から15チーム75名の選手が出場予定となっており、道央地域の山岳コースを中心に530kmを走破します。

※11日(日)第3ステージは喜茂別町内(国道276号留産く双葉方面)を通過します。

日程	ステージ	経路	距離(km)
9月9日(金)	第1ステージ	札幌市～余市町～共和町	171
9月10日(土)	第2ステージ	倶知安町～蘭越町～倶知安町	186
9月11日(日)	第3ステージ	倶知安町～伊達市～苫小牧市	173

●広報きもべつ8月号



道内各地で開催される自転車の国際レース「ツール・ド・北海道」の3年ぶり実施が決定いたしました。今年は豊浦町にもコースが設定されましたので、力強い走りを見せる選手たちへの応援をお願いいたします。なお、競技中はコースとなる道路に交通規制が行われますので、ご協力をお願いいたします。

▼実施予定日(豊浦町通過日)

9月10日(土)

▼コース

(第2ステージ 184 km 豊浦町通過分のみ掲載)
蘭越→新富～上泉～美和～山梨～大和大橋(ループ橋)→洞爺湖町

▼通過予定時間

(通過時間は、当日の状況により変更になります)
新富(蘭越町との境界): 午後0時20分～0時40分頃
美和(美和橋) : 午後0時50分～1時10分頃
大和大橋(ループ橋) : 午後1時05分～1時25分頃

問 水産商工観光課 商工観光係
☎83-1408

●広報とよら8月号

ツール・ド・北海道2022 開催及び交通規制について

9月9日(金)から11日(日)まで、道央地域を会場に自転車ロードレースのツール・ド・北海道2022が開催されます。

神恵内村においては、9日(金)に当丸峠から神恵内村を経て、国道を泊村方面へ競技車列が通過しますので、応援ください。

【交通規制日時】

- ・道道998号線神恵内ハイツ前から古平方面
11時55分から13時15分まで車両通行止
- ・道道998号線神恵内ハイツ前から神恵内石油前、
国道229号神恵内石油前から泊村方面
12時57分から13時20分まで競技車列の
追越禁止



【問合せ】

(公財) ツール・ド・北海道協会
☎011-222-5922
神恵内村総務課広報統計係 ☎76-5011

●広報かもえない9月号

★選手の力走を応援しましょう
**ツール・ド・北海道
2022が開催されます**
例年、道内各地で開催している自転車国際レースのツール・ド・北海道国際大会。3年ぶりの開催となる今年はニセコ町内にもコースが設定されました。力強い選手たちがすぐ近くを走りぬけますので、ぜひご覧ください。

迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。
町内を通過する日時などは次のとおりです。詳しくは大会ホームページにてご確認ください。

■日時/9月10日(土) 午後0時07分〜午後2時14分、9月11日(日) 午前11時05分〜午前11時31分 (予定)

■コース/9月10日(土) 蘭越町(国道5) ↓ ニセコ町(国道5) ↓ 道道32 ↓ 蘭越町、真狩村(道道66) ↓ ニセ

コ町(道道66) ↓ 曾我神社前(道道343) ↓ 倶知安町、9月11日(日) 蘭越町(道道66) ↓ ニセコ町(道道66) ↓ 真狩村

■交通規制/選手団通過の3分前から選手団通過まで
※通過の10分前に広報車両が通過

■通行止め/9月10日(土) 曾我神社前の町道(道道66) ↓ 道道343 午後1時45分〜午後2時10分
9月11日(日) 綺羅街道

(前田商店前交差点) ↓ セイコーマート前交差点
午前11時15分〜午前11時25分

■問合せ/(財) ツール・ド・北海道協会
Tel 011-222-5922
大会ホームページ ↓



●広報ニセコ9月号

ツール・ド・北海道2022の交通規制

出場選手が9月9日(金) 前10時12分ごろ・朝里峠 → 前10時27分ごろ・朝里大橋 → 前10時35分ごろ・望洋台大橋 → 前10時54分ごろ・毛無峠を通過しますので、通過時間帯は付近が車両通行止めとなります。
① 生涯スポーツ課 ☎7415、☎36608



●広報おたる9月号



01 ツール・ド・北海道とは？

ツール・ド・北海道は、国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ロードレースで、北海道の雄大な自然の中の公道を使用して街から街へと進む本格的な自転車レースです。

本大会は、世界の舞台を有するトップクラスの競技者にチャンスを与え、ともに、奇跡を期待される若き競技者の醸成の場となり、更には日本の自転車ロードレースに慣れぬ幅広い人材の育成にも役立つことを目的として開催されます。8ヶ月の開催となる今年の大会は14日内外の19チームが出場予定で、道東地域の山岳コースを中心とした300kmのコースを4日間かけて走ります。



ツール・ド・北海道
公式HP

02 競技日程

★第1ステージ 9月9日(金) 距離171km
(Start) 札幌市→小樽市→旭川市→札幌市→旭川市→古平町→厚内町→洞爺湖→洞爺湖(Finish)

★第2ステージ 9月10日(土) 距離186km
(Start) 旭川市→洞爺湖→旭川市→札幌市→札幌市→洞爺湖→洞爺湖→洞爺湖(Finish)

★第3ステージ 9月11日(日) 距離173km
(Start) 旭川市→洞爺湖→洞爺湖→札幌市→札幌市→洞爺湖→洞爺湖→洞爺湖(Finish)

広報ふら 2022.9

●広報ふら9月号-1

03 古平町通過コース (11時30分～12時30分頃)

洞爺湖→旭川市→洞爺湖→セイコーマート前交差点を左折→神恵内方面へ(道道908号線)



04 交通規制にご協力をお願いします！

9月9日は下記のとおり車両通行止めとなります。ご協力をお願いします。

①古平町トンネル出口付近(梅川トンネル入口)	11:55～12:30
②古平町駅前(パニー、グエリア付近)	12:20～12:30
③道道69号洞爺湖町内村(道標998号前)	11:55～12:15

※規制時間は、競技の進行状況によって変更となる場合があります。



観戦される方へお願い

- 新型コロナウイルス感染症対策として、大声は出さずに拍手で応援をお願いします。
- 警察官等の指示に従い安全な場所での応援をお願いします。

お問い合わせ先

ツール・ド・北海道協会
☎011-222-5922

企画実行関係
☎011-5-48-9886
(内線222, 228)

2022.9 広報ふら

●広報ふら9月号-2

ツール・ド・北海道2022開催に伴う交通規制のお知らせ

9月9日、競技車列の通過に伴い交通規制が行われますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

競技車列の通過時間帯には、現場の警察官や警備員の指示に従ってください。

また、渋滞が予想されますので、規制時間帯を避けるか迂回されるなど、交通の混雑緩和にご協力をお願いします。



出典:国土地理院Vector

※規制時間は競技の進行状況によって変更になる場合がありますので、ご了承ください。

問合せ ツール・ド・北海道協会2022実行委員会 ☎011-222-5922


●広報よいち9月号

ツール・ド・北海道 2022 開催
10日11日は交通規制が行われます

国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2022」が、9月9日から11日(9日)まで開催されます。10日(日)のスタート・フィニッシュ地点、11日(月)のスタート地点は、ニセコグラン・ヒラフスキー場前となり、一流選手の迫力あるレースを間近で観戦できる機会です。ぜひ沿道からエールを送りましょう!

【10日(日)】9時30分スタート→共和町・蘭越町など→14時頃フィニッシュ
 【11日(月)】9時30分スタート→共和町・蘭越町など→13時42分頃フィニッシュ(苫小牧市緑ヶ丘公園)

交通規制のお知らせ(倶知安町内)
 ■車両通行止め(右側着区間) 10日・11日9時20分～9時35分、10日13時50分～14時20分
 ※その他の競技区間(右側着・赤区間)では、競技車両通過時刻の3分前から通過までの間、車両・歩行者の通行制限(最大20分程度)が行われます。
 ※当日は現場の警察官の指示に従い、協力願います。



詳細は大会HP <https://2022.tour-de-hokkaido.or.jp/> をご確認ください。
 (公) 倶知安 ツール・ド・北海道協会 ☎011-222-5922

●広報くっちゃん9月号

ツール・ド・北海道2022による交通規制

9月9日(金)～11日(日)に行われる「ツール・ド・北海道」は、大自然の中を駆け巡る自転車ステージレースです。交通規制が行われますので、ご理解とご協力をお願いします。

交通規制日 9月11日(日)
詳スポーツ都市推進課 ☎(34)9601

●広報とまこまい9月号

第36回ツール・ド・北海道2022

9月9日から11日にかけて、自転車ロードレース大会「ツール・ド・北海道」が開催され、9日の第1ステージで15年ぶりに泊村がコース会場となりました。

15チーム、75名の選手たちは札幌市から3つの峠を越え、共和町までの171kmを走り抜けました。

なお、当日9日には村内での交通規制に対して、ご協力いただきありがとうございました。



●広報とまり10月号


ツール・ド・北海道2022

9月9日から11日までの3日間、国内最大級の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2022」が開催され、初日の9日に選手が村内を駆け抜けました。

この日は札幌市をスタートし3つの峠を越えてゴールの共和町を目指す過酷なルートで、選手の皆さんは最後の峠となった当丸峠を越えて村内を通過する際に、村民の皆さんの応援をうけて力強くこの日のゴール地点である共和町生涯学習センターを目指しました。



●広報かもえない10月号



9/10・11 ツール・ド・北海道 2022



自転車のロードレース「ツール・ド・北海道2022」が開催され、2日間にわたり多くの選手が真狩村を駆け抜けました。

真龍寺前が中間スプリントを競う「ホットスポット」に指定され、沿道にはカメラを構えた観客の姿が多数見られました。交通規制にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

●広報まっかり10月号

広報
きょうわ
2022 (令和4年) No. 806
ツール・ド・北海道 2022 生涯学習センター
<https://www.town.kyowa.hokkaido.jp/>

2022 (令和4年) No. 806
ツール・ド・北海道 2022 生涯学習センター
<https://www.town.kyowa.hokkaido.jp/>

10

●広報 きょうわ10月号

ツール・ド・北海道2022開催

9月9日から11日までの3日間、財団法人ツール・ド・北海道協会主催による「ツール・ド・北海道2022」が開催されました。

ツール・ド・北海道は、毎年9月に広大な北海道の大地を舞台に繰り広げられる日本最大級の自転車ロードレース大会で、今年で36回目を迎え、3年ぶりの開催となりました。

初日となる9日は、生涯学習センターがゴール地点として設定され、町内外から応援に駆け付けた観客が、沿道からゴール前を疾走する選手たちに向けて、たくさんの拍手を送っていました。その後、生涯学習センターでは、優勝者をはじめ上位入賞者の表彰式が行われました。

●広報 きょうわ10月号



青空のもと 銀輪が駆け抜ける

9月9日から11日の三日間、ツール・ド・北海道が開催されました。10日と11日には、町内をスタートした約50選手が、自然の中を勢いよく走り抜けました。

●広報 くっちゃん10月号

36th TOUR DE HOKKAIDO 2022

9.9 SUN - 9.11 SUN

総走行距離	約530km
第1ステージ(ロードレース)	[171km] 9/9日
第2ステージ(ロードレース)	[186km] 9/10日
第3ステージ(ロードレース)	[173km] 9/11日

TEL.011-222-5922 <https://www.tdohokkaido.jp>

第36回 ツール・ド・北海道 2022

協賛企業: NIPPO ROYCE SUBARU

競輪の補助事業 この大会は、競輪の補助を受けて実施します。
<https://www.jka-cycle.jp>

●(一財)北海道開発協会広報誌「開発こうほう」8月号掲載

ツール・ド・北海道 2022 報道・広報-11

【交通規制】 ツール・ド・北海道2022開催に伴う交通規制のお知らせ

2022年9月9日(金)

9月9日(金)～11日(日) 「ツール・ド・北海道2022」の開催に伴い、競技コース及びその周辺道路で交通規制が実施されます。お近くを通行する際は警察官や誘導員の指示に従い、目的地によってはあらかじめ迂回するなど、のルート設定をお願いします。

<STAGE1 (ニセコ町の競速走)>
9月9日(金) 9:20～14:00
札幌市南区～小樽市～寿館村～ニセコ町～余市町～苫小牧～津別町～泊村～共和町

● 2/2 (金) 交通規制箇所図 (PDF形式: 482KB)

<STAGE2 (ニセコ町の競速走に伴う交通規制あり)>
9月10日(土) 9:20～14:25
倶知安町～共和町～倶知安町～ニセコ町 (12:00頃～12:30頃)～登別町～滝川町～真狩村～ニセコ町 (13:30頃～14:10頃)～倶知安町

※町内通行止め
道路6号から倶知安町方面を走る街道～東山の信号交差点 (13:50頃～14:20頃)。
※通行止め区間以外
競速走列と対向車線が交差して通行可能 (徒歩・乗用車は不可)
競速走列と対向車線が交差して通行可能 (徒歩・乗用車は不可)

● 2/10 (土) 交通規制箇所図 (PDF形式: 548KB)

<STAGE3 (ニセコ町の競速走に伴う交通規制あり)>
9月11日(日) 9:20～14:10
倶知安町～共和町～倶知安町～ニセコ町 (11:00頃～11:30頃)～真狩村～登別町～伊達市～千歳市～苫小牧市

※町内通行止め
道路6号から倶知安町方面を走る街道～ニセコ町 (11:10頃～11:25頃)。
※通行止め区間以外
競速走列と対向車線が交差して通行可能 (徒歩・乗用車は不可)
競速走列と対向車線が交差して通行可能 (徒歩・乗用車は不可)

● 2/11 (日) 交通規制箇所図 (PDF形式: 506KB)

※9月11日(日) 12:30頃から90分程度、道央自動車道苫小牧中央インターチェンジ (IC) の出口が閉鎖されます。

●ニセコ町 HP

ニセコ町 - Niseko Town

自己紹介
ニセコ町公式ページ Niseko town official page

写真
すべての写真を見る

ニセコ町 Facebook 投稿内容:

- 9月12日(月)～9月19日(月) 企業連携 広報誌発売 12日(月) ... もっと見る
- 9月11日(日) ツール・ド・北海道2022開催に伴う交通規制のお知らせ (https://t.co/EV4RPa119)
- 観光事業案内7月自治体説明会の開催について (https://t.co/O65X8C0p) 小樽市観光事業推進委員会発表より、ニセコエリアの冬季シーズンを向けた、「観光案内7月自治体説明会」のご参加がごいりましたので、お知らせいたします。 日時 2022年10月20日(水) 14:00～15:30. もっと見る

●ニセコ町 facebook

ニセコ町役場

6,949 件のツイート

town.niseko.lg.jp
<順次、発送しています>ニセコ町暮らし応援商品券につ...
ニセコ町では、新型コロナウイルス感染拡大や世界情勢の...
変化に伴う物価の高騰により疲弊した町内の消費回復、町民...

ニセコ町役場 @nisekocho · 9月9日
ニセコ町暮らし応援商品券の配布について (bit.ly/3ATRAIX)

town.niseko.lg.jp
【交通規制】 ツール・ド・北海道2022開催に伴う交通規制...
9月9日(金)～11日(日)「ツール・ド・北海道2022」の開催に...
に伴い、競技コース及びその周辺道路で交通規制が実施され...

ニセコ町役場さんがリツイートしました
片山健也 @k_katayama · 9月8日
素敵だな♪
背景には、羊蹄山のシルエット♪

●ニセコ町 twitter

ツール・ド・北海道 2022 報道・広報-12



●真狩村 facebook



●真狩村 twitter



●真狩村 Instagram

ツール・ド・北海道 2022 報道・広報-13



●倶知安町 HP



●余市町 HP



●喜茂別町 twitter

ツール・ド・北海道 2022 報道・広報-14



●古平町 facebook



●仁木町 facebook



●蘭越町 facebook

ツール・ド・北海道 2022 報道・広報-15



●赤井川村 twitter



●神恵内村魅力創造研究会 facebook

●シクロワイアード



ツール・ド・北海道2022 プレビュー
3年ぶりのツール・ド・北海道 道央で3日間530kmの戦い

2022/09/08 - 18:12



レース ロード ツール・ド・北海道2022

9月9日から11日の3日間に渡り、UCI2.2のステージレ



ムをプレビューする。



ツール・ド・北海道2022 全ステージコース図 ツール・ド・北海道
ガイドブックより抜粋

今年のツール・ド・北海道は、道央地域を舞台に、3日
間3ステージ計530kmのコースが設定された。本来で
あれば2020年に開催するために設定されたコースだ
が、折からのコロナ禍により2020年、2021年と2年連
続で開催が見送られ、今回ようやく開催されること
になった。

国内レースでは唯一となったワンウェイ（片道）コ
ースの伝統を継承し、海岸線から山越えまで北海道の大
自然の中を走り抜ける。各ステージを見ていこう。

第1ステージ 札幌市～共和町 171km



第1ステージ スタート地場の豊
満緑道スタート
photo:Satoru Kato

第1ステージ コース序盤に現れ
る新雪スカイルー
プ
photo:Satoru Kato



第1ステージ コース終盤は日本海の海岸線に沿って進む
photo:Satoru Kato



2019年から3年ぶりのとなる「ツール・ド・北海道」が開催。第1ステージは、札幌
市から共和町までの171kmで行われ、終盤に駆け出した3名でのスプリント勝負を
制した今村駿介（チームブリタニアンサイクリング）が優勝した。



札幌市から共和町までの171kmスタート photo:Satoru Kato

UCI2.2クラスのステージレース「ツール・ド・北海道」は、3年ぶりの第1ステージ
を迎えた。他のレースやイベントの軒に覆れず、折からのコロナ禍により2020年、
2021年と2年連続で中止。3年ぶりの「再開」も規模の縮小などはなく、一部変更は
あったものの2020年に予定されていたコースとほぼ同じ規模での開催が実現した。



スタート線のチームカラーをまとめる車隊
photo:Satoru Kato

競合騎手10人への追いつき
photo:Satoru Kato

ちなみに、ツール・ド・北海道は2018年の大会前日に発生した北海道胆振東部地震
により中止となっているため、今年大会を含めても過去5年間で2回しか開催できて
いない。それでも大会そのものが無くなることは国内レースとしては異次元とも高
えよう。特に100%公募のワンウェイコースでのステージレースの開催地は、地
方産業を盛り上げるはずだ。それも大会開催者の努力と協力の賜りであるから
こそだろう。



ツール・ド・北海道2022 第3ステージ
僅差のスプリントを制した今村駿介が2勝
目 門田祐輔が総合優勝

2022/09/12 - 07:45



レース ロード ツール・ド・北海道2022

ツール・ド・北海道の第3ステージが倶知安町から苫小



リング）が今大会2勝目を挙げた。個人総合は、第2ス
テージで首位となった門田祐輔（EFエデュケーション・NIPPOデヴェロップメントチーム）が守り切っ
て初優勝した。



ポイント賞ジャージを着てアッ
プする今村駿介（新雪アラーゼ
ン） photo:Satoru Kato

リーダージャージの門田祐輔
（EFエデュケーション・NIPPO
デヴェロップメントチーム）と
山田洋之助のジャージ（セレン
テ・トリビオ（マトリックスバ
ワータ））が賞品を交わす
photo:Satoru Kato



最終札幌市上り坂の下のスタート photo:Satoru Kato



ツール・ド・北海道2022 選手コメント
門田「この成功体験を自信にして欧州で走り
たい」今村「トラック世界選に向け自信
になった」

2022/09/13 - 14:43



レース ロード ツール・ド・北海道2022

3年ぶりに開催されたツール・ド・北海道は、門田祐輔
（EFエデュケーション・NIPPOデヴェロップメントチ



ームをプレビューする。

個人総合優勝 門田祐輔（EFエデュケーション・
NIPPOデヴェロップメントチーム）



優勝トロフィーを手にする門田祐輔（EFエデュケーション・NIPPO
デヴェロップメントチーム） photo:Satoru Kato

（総合優勝のトロフィーを受け取って）3日間の疲労も
あるが、とても面白いトロフィー。今回のツール・ド
・北海道はステージ優勝出来ればと思っていたが、総合
優勝出来るととても嬉しい。チームとしては集団をコン
トロールしてタイム差を維持してフィニッシュし、集
合首位を守ることが目標だったが、レースは僕たちが
予想した通りの展開となった。



リーダージャージを守ったEFエデュケーション・NIPPOデヴェロ
ップメントチームのメンバーが握手を交わす photo:Satoru Kato

NIPPOのチームは北海道で勝ち残っているが、僕と
してはそこはプレッシャーに感じることなく、懸念す
ることもなくいつも通り走ったレース。ステージレ
ースはフランスのアマチュアで走っていた頃に総合勝
つて以来で、エリートのレースでは始めての総合勝
つ。自分にとって良い成功体験になったと思うので、
この自信をもってまたヨーロッパで走りたい。

●JR東日本 イベント情報サイト

●ぐうたび北海道 イベント情報サイト

●じゃらん イベント情報サイト

●主催

公益財団法人ツール・ド・北海道協会

●競技主管

公益財団法人日本自転車競技連盟

●後援

国土交通省
 スポーツ庁
 経済産業省
 北海道
 北海道市長会
 北海道町村会
 公益財団法人JKA
 公益財団法人日本スポーツ協会
 公益財団法人日本オリンピック委員会
 一般財団法人日本自転車普及協会
 一般社団法人自転車協会
 NHK札幌放送局
 北海道テレビ放送株式会社
 北海道経済連合会
 一般社団法人北海道商工会議所連合会
 北海道商工会連合会
 公益社団法人北海道観光振興機構
 一般社団法人北海道建設業協会
 一般社団法人北海道舗装事業協会
 一般社団法人日本道路建設業協会北海道支部
 北海道アスファルト合材協会
 一般社団法人北海道バス協会
 公益社団法人北海道トラック協会

●特別協力

北海道新聞社

●協力

北海道開発局
 北海道経済産業局
 札幌市
 小樽市
 苫小牧市
 千歳市
 伊達市
 蘭越町
 ニセコ町
 真狩村
 喜茂別町
 倶知安町

共和町
 泊村
 神恵内村
 古平町
 仁木市
 余市町
 赤井川村
 豊浦町
 洞爺湖町
 公益財団法人北海道スポーツ協会
 一般財団法人北海道交通安全協会
 北海道自転車競技連盟
 北海道自転車軽自動車商業協同組合
 北海道自転車協会
 北海道サイクリング協会
 特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会

●特別協賛

株式会社NIPPON
 株式会社ロイズコンフェクト
 株式会社SUBARU

●協賛各社

株式会社阿部商会
 井上ゴム工業株式会社
 IKEUCHI GROUP
 ウェッジ株式会社
 サッポロビール株式会社
 株式会社JTB 北海道事業部
 株式会社シマノ・シマノセールス株式会社
 ニッポンレンタカー北海道株式会社
 株式会社パールイズミ
 北海道ミネラルウォーター株式会社
 株式会社マトリックス
 マヴィックジャパン株式会社
 株式会社北海道丸和ロジスティクス

 岩田地崎建設株式会社
 協成建設株式会社
 こぶし建設株式会社
 株式会社三共コンサルタント
 大成建設株式会社
 道興建設株式会社
 株式会社ドボク管理
 菱中建設株式会社
 北土建設株式会社

ツール・ド・北海道2022 大会役員名簿

- **総 裁** 橋 本 聖 子 公益財団法人ツール・ド・北海道協会会長
- **名誉総裁** 綿 貫 民 輔 元衆議院議員
- **副 総 裁** 鈴 木 直 道 北海道知事[協会顧問]
秋 元 克 広 札幌市長[協会顧問]
西 原 巧 公益財団法人ツール・ド・北海道協会顧問
眞 田 眞 公益財団法人ツール・ド・北海道協会顧問
- **大 会 長** 山 本 隆 幸 公益財団法人ツール・ド・北海道協会理事長
- **副大会長** 松 村 正 之 公益財団法人日本自転車競技連盟会長
笹 部 俊 雄 公益財団法人JKA会長
- **大会顧問** 石 塚 宗 司 国土交通省北海道開発局長
岩 永 正 嗣 経済産業省北海道経済産業局長

● 大会参与(五十音順)

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 浅 野 史 久 公益財団法人JKA執行理事 | 高 井 修 北海道経済連合会副会長 |
| 阿 部 芳 昭 株式会社田中組相談役 | 高 橋 鉄 徳 泊村長 |
| 生 島 典 明 公益財団法人北海道スポーツ協会副会長 | 高 橋 昌 幸 神恵内村長 |
| 池 田 明 聡 池田明聡公認会計士事務所公認会計士 | 高 松 泰 公益財団法人ツール・ド・北海道協会常務理事 |
| 井 出 将 哉 株式会社NIPPO北海道支店執行役員支店長 | 滝 口 信 喜 北海道サイクリング協会会長 |
| 岩 倉 博 文 苫小牧市長 | 田 中 栄 作 一般財団法人日本自転車普及協会常務理事 |
| 岩 原 清 一 真狩村長 | 棚 野 孝 夫 北海道町村会会長(白糠町長) |
| 内 村 俊 二 喜茂別町長 | 辻 信 三 医療法人社団 東桑会 札幌北クリニック情報管理顧問 |
| 遠 藤 達 哉 国土交通省北海道開発局小樽開発建設部長 | 恒 松 浩 公益財団法人ツール・ド・北海道協会理事 |
| 片 山 健 也 ニセコ町長 | 富 山 英 範 国土交通省北海道開発局札幌開発建設部長 |
| 菊 谷 秀 吉 伊達市長 | 中 田 隆 博 一般社団法人北海道舗装事業協会会長 |
| 木 戸 寛 公益財団法人JKA専務理事 | 成 田 昭 彦 古平町長 |
| 小 磯 修 二 一般社団法人地域研究工房代表理事 | 成 田 慎 一 共和町長 |
| 金 秀 行 蘭越町長 | 野 崎 清 史 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会理事長 |
| 齊 藤 啓 輔 余市町長 | 迫 俊 哉 小樽市長 |
| 坂 敏 弘 一般社団法人北海道建設業協会副会長 | 馬 場 希 赤井川村長 |
| 佐 藤 聖一郎 仁木町長 | 日 浅 尚 子 前 株式会社北海道新聞社常勤監査役 |
| 三 宮 恵利子 公益財団法人日本自転車競技連盟副会長 | 村 井 洋 一 豊浦町長 |
| 篠 宮 章 浩 国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部長 | 文 字 一 志 俱知安町長 |
| 渋谷 尚 史 サッポロビール株式会社北海道本社副代表 | 安 江 哲 佐藤鉄工株式会社顧問 |
| 下 道 英 明 洞爺湖町長 | 山 口 幸太郎 北海都市長会会長(千歳市長) |

ツール・ド・北海道2022 実行委員会名簿

実行委員長 森野和泰 公益財団法人北海道スポーツ協会副会長
 実行副委員長 穴田勝彦 公益財団法人日本自転車競技連盟参与
 実行副委員長 小野盛秀 北海道自転車競技連盟会長
 実行副委員長 高松泰 公益財団法人ツール・ド・北海道協会常務理事

所属

委員

幹事

各団体

公益財団法人ツール・ド・北海道協会	常務理事	高松泰		
公益財団法人日本自転車競技連盟	参与	穴田勝彦		
北海道自転車競技連盟会長	会長	小野盛秀		
北海道自転車軽自動車商業協同組合	理事長	服部好泰	副理事長	春木直人
			副理事長	風間貴之
北海道自転車協会	会長	村山文彦		
北海道サイクリング協会	理事長	村上昌美	理事長	古館一也
特定非営利活動法人北海道歩くスキー協会	代表理事	丸山光徳	理事	池内勝治
一般財団法人北海道交通安全協会	専務理事	堀内巖	北海道交通安全活動推進センター長兼企画推進部長	大野富穂
公益財団法人北海道スポーツ協会	副会長	森野和泰		
	専務理事	高野瑞洋		
	専務理事	廣田恭一		
一般社団法人北海道商工会議所連合会	専務理事	鳴海拓史		
北海道商工会連合会	専務理事	中村智		
公益社団法人北海道観光振興機構	専務理事			

北海道開発局

北海道開発局	建設部長	谷村昌史	開発調整課長	井田泰蔵
	開発監理部長	石川伸	開発調整課開発調整推進官	藤田純一
			建設行政課長	加藤章
			河川計画課長	坂岡真治
			道路計画課長	坂本憲浩
			道路建設課長	林華奈子
			道路維持課長	林憲裕
			港湾計画課長	早川哲也
(札幌開発建設部)			次長(総務担当)	藤井和貴
			次長(道路・空港・公園担当)	近藤勝俊
(小樽開発建設部)			次長(総務担当)	赤塚裕司
			次長(河川・道路担当)	加納民雄
(室蘭開発建設部)			次長(総務担当)	相馬教宏
			次長(河川・道路担当)	三宅洋

北海道

北海道	スポーツ局長	高見芳彦	環境生活部 スポーツ振興課長	阿部真之
			建設部 建設政策局 維持管理防火課維持担当課長	黒田健一
			建設部 建設政策局 維持管理防火課管理担当課長	相良修一
			建設部 土木局 道路課長	泉智夫
(石狩振興局)			副局長	尾喜希
(後志総合振興局)			副局長	森秀生
			小樽建設管理部 地域調整課長	椋平剛史
(胆振総合振興局)			副局長	伊藤雅実
			室蘭建設管理部 地域調整課長	辻亘

市町村

札幌市	スポーツ部長	佐藤美賀	企画事業課長	深井貴広
小樽市	教育部長	薄井洋仁	生涯スポーツ課長	富樫誠
苫小牧市	総合政策部長	町田雅人	スポーツ都市推進課長	畠山邦雄
千歳市	観光スポーツ部長	山田義彦	スポーツ振興課長	中村崇充
伊達市	大滝総合支所長	千根一志	大滝総合支所地域振興課長	鈴木崇史
蘭越町	副町長	山内勲	商工労働観光課長	水之上昭広
ニセコ町	副町長	山本契太	商工観光課長	齊藤徹
真狩村	副町長	長船敏行	企画情報課長	西下恵治
喜茂別町	町長	内村俊仁	まちづくり振興課長	木下恵一郎
倶知安町	副町長	菅原雅仁	総合政策課長	黒田智
共和町	副町長	廣谷隆暢	企画振興課長	照井誠
泊村	副村長	加藤哲朗	総務課長	伊名野巖夫
神恵内村	副村長	青塚芳朗	総務課長	阿部賢至
古平町	副町長	奥山均	企画課長	人見完崇
仁木町	副町長	林幸治	産業課長	浜野宏
余市町	副町長	細山俊樹	企画政策課長	阿部重和
赤井川村	副村長	大石和朗	総務課長	高松重和
豊浦町	副町長	須田歩	産業観光課長	長谷部晋
洞爺湖町	副町長	武川正人	観光振興課長	田仁孝志

ツールド・北海道2022 大会競技役員名簿

■大会実行委員長

森野 和泰

■大会実行副委員長

穴田 勝彦・小野 盛秀・高松 泰

■総務委員長・大会ディレクター

山本 隆幸

■総務副委員長

伊藤 博

■総務委員

古藤 敏之・鏡 幸恵・大脇 恒夫・堀江 洋一郎・恒松 浩
小林 かおり・児玉 万里・吉田 貴典

■協会事務局

清水 敏夫・小泉 俊則・横田 康弘・岩本 猛起

■式典・賞典担当

三原 孝二

■通訳

デーヴィッド バーネット

■警備・コース担当

石戸谷 眞逸・小野 俊博・今野 昭二・伊藤 岳司
児玉 浩文・古内 徹

■会場・車両担当

湯口 雄司・河内 義則・近藤 幸市郎・佐藤 修
澤田 順一・鈴木 伸二・横山 博之・飯田 茂

■交通対策担当

嘉見 誠一・田原 庸弘・山崎 常雄・塩谷 直路

■広報委員長

鏡 幸恵

■広報副委員長

山内 康史

■広報担当

安江 哲・平吹 幸・桑原 直樹・岩崎 梢・御田 彩織
武政 晃央・富谷 純子・阿瀬川 稔・武政 佳容子・木村 英敏
山村 柁平・加藤 智

■集計・コミュニケーション担当

大脇 恒夫・島村 千樹・尾西 基樹・大鳥居 雅・兼山 智樹

■選手収容担当

高橋 幸久・齋藤 新人・遠藤 謙二・長尾 歩

■医務担当医師

青木 昌弘・山田 隆宏・大坪 優介

■看護師

松田 悦子・秋保 頼子・白岩 さやか・上田 竜也

■医療担当

安倍 明政・横山 響

■審判長

藤森 信行

■競技ディレクター

小野口 裕朗

■コミセールパネル

勝見 洋一・岩佐 千穂

■大会セーフティマネージャー

堀江 洋一郎

■フィニッシュジャッジ

坂井田 米治

■審判員

清水 一孝・森本 聡・小野口 哲也・中安 基之
力石 達也・下村 敏隆・麦倉 陽介・吉清水 一之
奥原 進治・中村 恭治・芦澤 拓郎・小笠原 嘉・横野 明子
磯田 友賀・平林 功・齋藤 晃一郎・蓼沼 真弓・伊藤 将史
堂後 逸代・中野崎 敏幸・大脇 恒夫・大野 直志
浅田 裕美・秋庭 司・松田 淳・洲鎌 政義
西野 勝士・村上 典正・酒井 和彦・外崎 修
福田 吉晃・山口 智裕・蓮沼 英司・山崎 義明
平岡 雅史・木村 俊一・菅 清香・佐藤 雅憲
平出 剛一・近岡 紀子・大場 博史・澤口 恵生・松田 健吾
岸澤 隆・寺井 英治・菊地 ひずる・中井 豊・鴨川 有李
假谷 豊・石垣 秀人・長谷 孝一・上野 幸二・古田 雅拓

(オートバイエスコート)

千葉 鶴也・坂 知明・椎名 直子・千葉 正彦・南山 清志
山崎 弘之・清水 寛平

■ニュートラルサービス担当

住谷 修・高橋 義彦・原 裕紀・岡林 知人
蓼沼 和成・藤田 一鷹・浦野 篤・鈴木 光広・石橋 旭

■COVID-19コーディネーター

高松 泰・横山 敢紀・星 祐二・星 ちひろ・山村 正薫
井出 竜太郎・石川 義樹・坂井 一浩・一條 秀己・柏谷 光晴

■ドーピングコントロール

(リードドーピングコントロールオフィサー)

佐藤 裕

(ドーピングコントロールオフィサー)

鈴木 靖・久保 晋大・大津 成夫・永谷 稔

(事務局担当)

宮 孝司

(国内競技団体代表)

政田 一樹

ツール・ド・北海道2022 賛助会員名簿

●法人

一般社団法人網走建設業協会
 一般財団法人石狩川振興財団
 一般社団法人寒地港湾技術研究センター
 小樽建設協会
 札幌自転車競技連盟
 一般社団法人 函館建設業協会
 一般社団法人 北海道開発技術センター
 一般社団法人 北海道開発協会
 一般財団法人 北海道河川財団
 北海道自転車軽自動車商業協同組合
 一般社団法人 北海道商工会議所連合会
 一般社団法人 北海道測量設計業協会
 一般財団法人 北海道道路管理技術センター
 一般社団法人 北海道土地改良建設協会
 一般社団法人 北海道土地改良設計技術協会
 公益社団法人 北海道トラック協会
 稚内建設協会

 赤川建設興業株式会社
 阿寒共立土建株式会社
 秋津道路株式会社
 旭イノベックス株式会社
 株式会社アサヒ建設コンサルタント
 あすなろ道路株式会社
 荒井建設株式会社
 株式会社 安藤・間 札幌支店
 株式会社生駒組
 勇建設株式会社
 株式会社石山組
 株式会社伊豆倉組
 株式会社磯田組
 株式会社伊藤組
 伊藤組土建 株式会社
 株式会社伊藤工業
 岩倉建設株式会社
 岩田地崎建設株式会社
 植村建設株式会社
 株式会社エーティック
 ENEOSレーディング株式会社
 株式会社園建
 及川産業株式会社
 大江建設株式会社
 株式会社大林組 札幌支店
 大林道路株式会社 北海道支店
 株式会社ガイアート 北海道支店
 株式会社開発工営社
 開発工建株式会社
 鹿島道路株式会社 北海道支店
 機械開発北旺株式会社
 岸本産業株式会社
 株式会社北一組
 北日本港湾コンサルタント株式会社

協和八光建設株式会社
 草野作工株式会社
 栗林建設株式会社
 ケイセイマサキ建設株式会社
 光栄建設工業株式会社
 株式会社構研エンジニアリング
 株式会社小金澤組
 小針土建株式会社
 こぶし建設株式会社
 有限会社サイクル小野サッポロ
 斉藤井出建設株式会社
 坂野建設株式会社
 株式会社佐々木建設
 札幌建設運送株式会社
 沢田建設株式会社
 三協建設株式会社
 三共電気工業株式会社
 株式会社サン広告社
 清水建設株式会社 北海道支店
 白崎建設株式会社
 株式会社シン技術コンサル
 新太平洋建設株式会社
 新島工業株式会社
 新谷建設株式会社
 世紀東急工業株式会社 北海道支店
 株式会社総北海 札幌支店
 大成ロテック株式会社 北海道支店
 大地コンサルタント株式会社
 大同舗道株式会社
 大北土建工業株式会社
 株式会社高組
 高玉建設工業株式会社
 タカハタ建設株式会社
 株式会社田中組
 株式会社田中工業
 株式会社谷脇組
 株式会社田端本堂カンパニー
 株式会社玉川組
 株式会社田宮設計事務所
 地崎道路株式会社 北海道支店
 中央コンサルタンツ株式会社 札幌支店
 中大実業株式会社
 株式会社通電技術
 辻谷建設株式会社
 中大実業株式会社
 株式会社長栄通建
 ツバメ工業株式会社
 株式会社DSP
 株式会社ティーネットジャパン北海道支店
 鉄建建設株式会社 札幌支店
 電通設備株式会社
 東亜道路工業株式会社 北海道支店
 東海建設株式会社

道興建設株式会社
 東光舗道株式会社
 株式会社東洋実業
 道路建設株式会社
 道路工業株式会社
 株式会社ドーコン
 徳井建設工業株式会社
 戸田建設株式会社 札幌支店
 戸田道路株式会社 札幌支店
 飛鳥建設株式会社 札幌支店
 株式会社ドボク管理
 株式会社土木技術コンサルタント
 中道リース株式会社
 株式会社中山組
 西江建設株式会社
 西松建設株式会社 札幌支店
 株式会社日栄建設
 日成建設株式会社
 日本工営株式会社 札幌支店
 日本データサービス株式会社
 日本道路株式会社 北海道支店
 日本ロックス株式会社
 株式会社野田組
 パシフィックコンサルタンツ株式会社
 株式会社橋本川島コーポレーション
 花本建設株式会社
 パブリックコンサルタンツ株式会社
 東日本富士新道路株式会社
 日吉建設株式会社
 株式会社廣野組
 富士建設株式会社
 不二建設株式会社
 藤原工業株式会社
 株式会社不動テトラ 北海道支店
 萌州建設株式会社
 北央道路工業株式会社
 北斗徽章株式会社
 北土建設株式会社
 北都道路株式会社
 株式会社北開水工コンサルタント
 株式会社北海道近代設計
 株式会社北海道新聞社
 北海道道路エンジニアリング株式会社
 株式会社北海道丸和ロジスティクス
 北海道ロードメンテナンス株式会社
 株式会社ほっきょう
 株式会社堀口組
 堀松建設工業株式会社
 幌村建設株式会社
 前田建設工業株式会社 北海道支店
 前田道路株式会社 北海道支店
 丸建道路株式会社 札幌支店
 丸駒シルバーサービス株式会社

丸彦渡辺建設株式会社
 三井住建道路株式会社 北海道支店
 宮坂建設工業株式会社
 宮永建設株式会社
 株式会社宮原組
 宮脇土建株式会社
 村井建設株式会社
 株式会社盛永組
 株式会社森本商会
 八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所
 株式会社山内組
 株式会社山口工業所
 山高建設工業株式会社
 株式会社山田組
 株式会社山伏パコム
 山本電子工業株式会社
 渡辺建設工業株式会社

●個人

阿部 芳昭
 伊藤 孝彦
 伊藤 博
 牛島 元嗣
 大島 行司
 梅田 勝
 大野裕一郎
 尾埜 森己
 勝見 洋一
 小塚 耕平
 古藤 敏之
 清水 敏夫
 鈴木 秀之
 清崎 晶雄
 高松 泰
 田下 啓一
 恒松 浩
 東岱 庄一
 長澤 直樹
 永野 みお
 藤原 盛一
 三上 優
 湊 雄一
 柳沼 清恵
 山本 隆幸
 遊佐 義彦
 和田 俊博
 渡辺 総悦



TOUR DE HOKKAIDO

お問い合わせ先 / For further information
〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル 5階
Daini Dotsu Bldg. 5F, North 5, West 6, Chuo-ku, Sapporo, 060-0005, Japan
公益財団法人ツールド・北海道協会 / Tour de Hokkaido Association
電話 (011) 222-5922 ファックス (011) 232-4604
Tel+81-11-222-5922 Fax+81-11-232-4604
<https://www.tour-de-hokkaido.or.jp>
E-mail tourde-h@spice.ocn.ne.jp
E-mail tourdech@jasmine.ocn.ne.jp (for English)

UNION CYCLISTE INTERNATIONALE (国際自転車競技連合)
TEL+41-24-468-5811 FAX+41-24-468-5812



この道の先に

NIPPO

ROYCE'



SUBARU